

# 次期基本構想の策定について

平成30年(2018年)2月1日

滋賀県

# 1 次期基本構想の計画期間について(案)

【計画期間について】 計画期間を2019年度～2030年度の12年間とする。(必要に応じて見直す)

## 《設定の考え方》

○ 現基本構想は、1世代後となる2040年頃を展望しつつ、重点政策篇の計画期間として4年間の計画として定めているところであるが、技術革新などにより、社会の変化のスピードが加速する中で、より現実的に見通せる時期を設定し、目指す姿を明らかにする必要がある。また、各分野別計画の基本となるものとして、中長期の方向を示しておく必要がある。

○ 人口減少・少子高齢社会が進む中、団塊の世代がすべて後期高齢者となる2024年(いわゆる2025年問題)や新たな交通基盤の整備により人や物の流れが変わると予想される時期などを踏まえ、その後の対応も見据えた将来の姿を描いておく必要がある。

○ 「滋賀県低炭素社会づくり推進計画」において、温室効果ガス削減にかかる目標年度を2030年度とし、2013年度比23%減の水準を目指すとしている。

○ 社会・経済の展望において、人工知能(AI)やIoT、ロボット技術などによる第4次産業革命が進み、技術革新により社会や暮らしのあり方に大きな変化が生じることが予測される。

○ 持続可能な開発目標(SDGs)の目標年次が2030年であり、世界の目標と歩調を合わせ、本県の目標を合わせる。

○ 現在示している財政収支見通しが概ね10年を見据えた中長期的なものとなっており、その間に予定されている大規模事業や社会保障費の伸びなど、政策の方向に影響するものも含まれることから、これらを踏まえて展望しておく必要がある。



以上のことから、2030年を目標年次とした計画期間12年とする。

※ なお、計画期間中であっても、本県を取り巻く経済・社会情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて、見直しをすることがある。

また、これまでは重点政策篇の計画に合わせて、実施計画も同じ4年計画で策定していたが、毎年ローリングする方式で、3年もしくは4年の実施計画を策定することとし、進捗やその時点の状況に応じたものとして進行管理していく。

## 【参考】 2030年までの社会の主な動き

年	主な動き
2020	・東京オリンピック・パラリンピック
2021	・団塊ジュニア世代が50代に (介護離職が増加) ・全国植樹祭、ワールドマスターズゲームズ2021関西
2022	・団塊世代が75歳に (ひとり暮らし世帯が増加)
2023	・北陸新幹線が敦賀まで延伸
2024	・新名神高速道路(大津～城陽)開通予定 ・国民体育大会・全国障害者スポーツ大会
2025	・団塊世代が全て75歳以上に (3人に1人が65歳以上) ・大阪万博(未定)
2027	・リニア(東京～名古屋)開通(最速40分で到着)
2030	・労働力人口が2013年から900万人程度減少(内閣府労働力人口将来推計)

## 2 時代の潮流

### ① 社会 「人口動向と暮らしの変化」

#### 世界を巡る動き

- ・ 国連によると、現在76億人の世界人口は、2030年までに86億人、2050年には96億人に到達
- ・ 国連は、人口増加はアフリカ、アジアを中心に拡大し、世界的な平均寿命の延伸と出生率の低下により、世界が高齢社会を迎えると予測
- ・ 国連によると、7億人を超える人々が極度の貧困状態にあり、先進国でも、3000万人の子どもが貧困の中で成長、5,700万人の子どもが学校に通えない状況
- ・ 様々な人権についての課題の中で、女性の人権、ジェンダー平等について、活発な動きがあり、また、LGBTなど性の多様性についても理解が広がりつつある
- ・ 北朝鮮による核・ミサイル開発や挑発行為、中東における民族紛争など安全保障上のリスクが増大
- ・ 2016年G7教育大臣会合の中で、「社会的包摂※1」と「共通価値の尊重※2」が掲げられている

※1: 全ての人々が社会を生き抜くために必要な力を培う

※2: 生命の尊重、自由、寛容、民主主義、多元的共存、人権の尊重等

#### 日本を巡る動き

- ・ 日本の総人口は、2015年国勢調査による1億2709万人から、2053年に1億人を下回り、2065年には8,808万人になると推計されており、少子化の影響は深刻。多様な人が活躍する社会が求められる
- ・ 2025年には、全ての団塊の世代が75歳以上となり、世界の先頭を切って、本格的な超高齢社会へ※カリフォルニア大学の研究によると、日本では2007年生まれの子ども半数が107歳まで生存と予測
- ・ 高齢者の単身世帯の増加や生涯未婚率の上昇などにより、2022年には一人暮らし世帯が1/3を超えると予測
- ・ 生涯を通じたところの健康づくりが重要(幼児、小・中学校:発達障害、不登校、成人:うつ病、高齢者:認知障害)
- ・ 女性リーダーの数や男女の賃金格差など、ジェンダー平等に対する国際的な評価は低位
- ・ 2030年頃までに住宅の約1/3が空き家となり、街の景観や治安悪化などのリスク要因に
- ・ 幼児教育から小・中・高等学校教育、高等教育、更には社会人の学び直しに至るまで、生涯を通じて切れ目なく、質の高い教育を用意

## 2 時代の潮流

### ② 経済 「世界の経済情勢の変化と第4次産業革命」

世界を巡る動き	日本を巡る動き
<ul style="list-style-type: none"><li>2030年に向け、世界経済の中心が、欧米から中国・インドなどのアジア諸国へ移行する見込み</li><li>世界経済の中間所得・雇用の伸び悩みや若年失業の継続、格差拡大が継続すれば、英国のEU離脱や、米国のTPP交渉からの離脱など保護主義の台頭を招く可能性がある</li><li>化石燃料により生み出した資産が企業経営のリスクと見なされ、再生可能エネルギーの導入拡大と省エネ技術等による化石燃料からの脱却の流れが顕在化</li><li>人工知能(AI)やIoT、ロボット技術などの劇的な進化による第4次産業革命が進み、社会や暮らしのあり方が大きく変化する可能性</li><li>世界経済フォーラムは、2030年までに、ウェアラブル端末や自動運転車の実用化、AIによる労働の代替、シェアリングサービスなどが拡大と予測</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>日本の実質GDP成長率については、成長実現ケースで2020年度に1.5%程度、2027年度に2.1%(内閣府 中長期の経済財政に関する試算(2018年1月))</li><li>国は、目指すべき未来社会の姿として「Society 5.0」を提唱。狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く人類史上5番目の新しい社会は、第4次産業革命で新しい価値やサービスが次々と創出される超スマート社会であり、生産性のある社会</li><li>野村総研等の推計では、10～20年後に日本の労働人口の49%がAIやロボットに代替される可能性。電力供給の限界を指摘する意見もあり</li><li>一方で、2017年度版の科学技術白書では、日本の基礎研究力の低下が指摘されるなど、技術力に対する国際的評価が低下</li><li>2027年にはリニア(東京～名古屋間)が開通するなど、人やモノの流れが大きく変わることが予測</li><li>高度成長期に整備された社会インフラの急速な老朽化が、大きなリスク要因に</li></ul>

## 2 時代の潮流

### ③ 環境 「気候変動による地球環境の変化」

世界を巡る動き	日本を巡る動き
<ul style="list-style-type: none"><li>・ IPCC第5次評価報告書(2014年)によると、地球温暖化は人間活動に起因する温室効果ガスの増加が原因であるとほぼ断定</li><li>・ 気温上昇が20世紀末に比べ2℃以上となると、極端な豪雨や干ばつ、海水面の水位上昇、農作物や生態系に負の影響を及ぼすと予測。特に開発途上国で、災害や疾病の増加、食糧や水の不足がより深刻化する恐れ</li><li>・ 海水の酸性化やマイクロプラスチックによる海洋汚染が生態系に与える影響が新たな課題に</li><li>・ 国際自然保護連合が2017年に公表したレッドリストでは、約9万種の動植物のうち2万5,821種が絶滅危惧種。生態系と生物多様性の破壊が進行</li><li>・ 2015年に採択された「パリ協定」では世界共通の長期目標として気温上昇「2℃目標」を設定</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 日本の年平均気温は100年あたり約1.19℃の割合で上昇</li><li>・ 2016年5月に閣議決定された「地球温暖化対策計画」において、温室効果ガスの排出削減目標を2030年度26%削減(対2013年度比)と設定</li><li>・ 同計画では、極端な大雨による水害・土砂災害の増加、少雨や積雪量の減少による渇水、病害虫の異常発生による農業被害など様々な温暖化の影響が予測</li><li>・ パリ協定に基づき、世界で脱化石燃料に向けた取組が広がる中、2017年開催のCOP23では、日本の石炭火力発電所の増設方針に対する疑問提示</li></ul>

### 3 滋賀の強み(・弱み) ※現段階では強みのみ抽出

#### 【人】

##### ○ 心豊かな滋賀の人

- ・ 糸賀一雄先生の「この子らを世の光に」の考えにある一人ひとりを大切にする心
- ・ 近江商人の経営の理念である「三方よし」の考えにある公の心
- ・ 琵琶湖とともに生き、自然を大切にしてきた近江人の環境を大切にする心
- ・ 住民自治の精神、新しいものを導入しようとする挑戦の心や進取の気性

##### ○ 滋賀で暮らし、滋賀で活躍する人

- ・ 男性の平均寿命が全国1位(81.78年)、女性の平均寿命が全国4位(87.57年)
- ・ ボランティア活動の年間行動者率が全国1位(33.9%)
- ・ 平均年齢が年齢の若い順で全国3位(44.5歳)

#### 【くらし】

##### ○ 豊かな生活

- ・ 豊かな自然と過ごしやすい気候
- ・ 人口10万人当たりの百貨店・総合スーパー数は2.33店で全国2位
- ・ 公立図書館の県民1人当たり図書貸出冊数は8.35冊で全国2位
- ・ 勤労者世帯1世帯当たり貯蓄現在高は16,025千円で全国1位
- ・ 近江牛や近江米など全国に知られたブランド、琵琶湖が育む魚介類、伝統野菜やふなずしや野菜の漬物などの発酵食
- ・ 自然や歴史、観光地等を楽しむビワイチ
- ・ スポーツ年間行動者率(10歳以上)は71.6%で全国4位

#### 【社会】(歴史文化・地の利)

##### ○ 多くの歴史資産・文化資産

- ・ 国宝・重要文化財の数は全国4位
- ・ 文化財の県内に広く分布しており、地域のくらしに根付き、守られている
- ・ 世界遺産、日本遺産

##### ○ 恵まれた地理的条件

- ・ 関西・中京・北陸経済圏のクロスポイント、国際港湾、国際空港が100km圏内に複数設置され、県内各地から90分以内で移動

#### 【経済】(技術・ノウハウ)

##### ○ 高度なものづくり技術を有する企業

- ・ 技術・製品の世界または国内シェア1位、ニッチトップ企業など

##### ○ 地域の伝統産業など先人の知恵と技

- ・ 9つの地場産産業、地域の生活と地域の人々の生活と密着しながら受け継がれた工芸品

##### ○ 大学・研究機関等知的資源の集積

- ・ 13の大学・短期大学と約38,000人の学生、世界のモノづくりを牽引するマザー工場や研究開発拠点

##### ○ 安全・安心で環境に配慮した地域で守る滋賀の農業

- ・ 環境こだわり農業取組面積日本一
- ・ 集落営農組織数は829組織、集落営農法人数は293法人でいずれも全国3位

#### 【環境】(豊かな自然)

##### ○ 森・川・里・湖の水系のつながり

- ・ 琵琶湖を中心にその周囲を山々が囲む空間
- ・ 山に降り注ぐ雨が、川となり田畑・里地を潤し、琵琶湖の生態系を育む

##### ○ 琵琶湖の価値

- ・ 古代湖、水源、水産業の場、観光・レジャー、学術研究の場としての価値

## 基本構想審議会委員意見聴取結果概要(抜粋)

分野	主な意見
琵琶湖	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境施策について、関係者は誰なのか、誰が大事にしている環境なのか、目標はどこまでなのかはできるだけ明確にするほうが良い。(例:地域の人が求める水質など)</li> <li>・議論では、住民対住民の形に持っていけないといけない。行政の役割が大きくなりすぎる。</li> <li>・行政の役割が大きくなりすぎている。住民同士が議論できる環境が必要。</li> <li>・環境を守ることで事業収入を生み、次の新たな環境保全に使われるという仕組みが必要。</li> <li>・琵琶湖保全再生法が制定されたことにも関連し、琵琶湖を守り、生かす取組が求められている中で、今後、そのような取組に挑戦する必要。</li> </ul>
生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来生物だから駆除するという短絡的な論理になっており、その部分が議論されていないことは問題。</li> <li>・自然資本は地域社会のベースになっている。森林は、最上流の自然生態系であり、滋賀のベースとして大事なもの。健全な自然を後世に引き継ぐことが大事。</li> <li>・循環を意識する暮らしを大事にする必要がある。</li> <li>・エコツーリズムやフットパス等の推進で、山に入る人が増えるようにするべき。</li> <li>・木質バイオマス発電は大きければいいというものではなく、地域の実情にあったものにするべき。</li> <li>・川上(林業)、川中(製材)、川下(大工、木工等)の間で、もっと情報交換できるようにしたいといけない。</li> <li>・今の基本構想の目指す姿の「自然・環境」には山のことが触れられていない。山、川、里、湖の視点が必要。</li> </ul>
健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療で治療できることは、2割くらい。あと8割は、友達や行きつけの場所があるなど、人とのつながりであると言われている。</li> <li>・高齢者を弱者として捉えるのではなく、自助、共助を引き出していくムードを創ることが重要。</li> <li>・元気な高齢者を増やしていくことが前提。単に、要介護2以上が健康でないとかではなく、介護が必要でも、元気高齢者となり得る。</li> <li>・従来は、疾病対策であったが、これからは生活支援である。</li> <li>・少子化が進んだこともあり、相対的に自閉症患者が増加傾向にある。若い時から、個性だという認識を共有させる教育が必要。</li> <li>・ひとりひとりを大事に、理解し安心できる環境が共存につながる。</li> </ul>
共生社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てしながらキャリアアップできるような社会をつくらねばならない。</li> <li>・若い女性に好かれる、選ばれるまちでないと生き残れない。</li> <li>・LGBT、外国人などの多様性、ジェンダー平等のまちでないと人は来ない。</li> </ul>

## 基本構想審議会委員意見聴取結果概要(抜粋)

分野	主な意見
共生社会 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国にルーツを持つ子どもの居場所づくりをする活動を行っている。</li> <li>・人種や皮膚の色の認識について、50年前の状況と変わっていない状況もある。</li> <li>・日本語を話せない外国人が社会と接点がなく、孤立している。</li> <li>・親が外国人で子どもが日本で育った場合、親子のコミュニケーションが取れない家庭が多い。</li> <li>・外国人児童には義務教育がなく、教育が受けていない子どもが多数いるはず。</li> <li>・特にポルトガル語、スペイン語は、多言語表記がなく、暮らしづらい。</li> <li>・日本社会全体に寛容さがなくなり、暮らしづらいと感じるのは、外国人だけではない。外国人はこれから増加する。受け入れ側の社会も変わらないといけない。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対等な立場で違いを認め合い、活躍してもらうことが重要。</li> <li>・多文化共生社会には、「人権意識を持つこと」、「多様性を受け入れる社会の仕組みをつくること」。</li> <li>・人口減少社会では、働く、暮らす場所に選ばれなければならない。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法律や文化の違いを理解することが課題。</li> <li>・日本は安全だが、言葉や人との関係性の壁を乗り越えられないと住みにくい。</li> </ul>
子ども・子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが安心していられる居場所づくりが必要。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの貧困では、給食費が払えないなど、社会の格差が広がっている。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自尊感情を高めるための事業(フリースクール)を実施しているが、小学生向けのフリースクールは、関西でもほとんどない。</li> <li>・フリースクールは、家・学校とは別の第3の場所で、そこが居場所となっている。</li> <li>・最近、ひとり親家庭の不登校も課題となっている。</li> <li>・学校やスクールカウンセラーも不登校のことを分かっておらず、不登校支援がない。親子関係が悪いと、見えない課題となる。</li> <li>・不登校になった子の居場所、なった後にどう生きていくかが重要。</li> </ul>



## 基本構想審議会委員意見聴取結果概要(抜粋)

分野	主な意見
子ども・子育て (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども食堂は、県内82カ所になる予定。「食事」という行為には、人間の基本が詰まっている。多くの人に関わり、地域が子どもの様子に気づきことで、次の世代への愛情が、家という枠を超えて出てくる。</li> <li>・来て欲しい子は、家で十分に食べられてない子、いじめられている子、一人で食事をしている子などだが、家計が苦しいとか、虐待は外から見えない。</li> <li>・公共の場に出てくることは、つながりの価値を持つこと。</li> <li>・家・学校とは異なる第3の場所。その居場所で出会う人が大切。</li> <li>・フリースペースが県内に10かあるが、通う子たちは病気ではなく、様々な環境で心にいらだちがあることで、友達ができにくかったり、先生に当たったりしてしまう。子ども食堂も含めて、このような居場所が多重的に存在していることが大切。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最近、夢を持つ子どもが少なくなっている。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供のころの幸福感が、大人になっても影響する。自己肯定感を育む教育が必要。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シングルマザーの困窮が大きい。母子家庭の2軒に1軒が貧困の状況にある。家庭の貧困が子どもの貧困につながっている。本当の貧困は表に出にくい。</li> <li>・労働者からの相談では、最近、生活の問題が多い。</li> <li>・シングルマザーは、長時間労働に出るため、子どもも家庭に居場所がなくなる。</li> <li>・滋賀にはフードバンクがほとんどない。</li> <li>・漁業や農業、林業の後継者不足。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南部のマンションが増加する地域では、共働きの世帯が多い。保育園に通う2歳くらいの子が増加しているが、日中いないため、顔が見えない。</li> <li>・マンション地域と以前から住んでいる地域は、つながりや関わりが難しい。</li> <li>・コミュニティの機能には、市町の協力や支援も必要。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育ての先輩として話を聴くことで不安が和らぐ人もいれば、状況により保健師などの専門職につなげることもある。</li> <li>・出産を機に雰囲気仕事を辞めた女性がそのまま社会で働くことなく終わることに漠然とした不安を抱えている。</li> <li>・育児をしながら相談窓口に行くだけでも難しかった。長浜にマザーズジョブの出張所ができ、ずいぶん改善した。</li> <li>・今後は起業後の支援を充実していきたいと考えており、コワーキングスペースを作りたい。</li> <li>・子育て期の女性は自身の健康管理が後回しになりがち。母親自身の健康についても、提供していきたい。</li> </ul>

## 基本構想審議会委員意見聴取結果概要(抜粋)

分野	主な意見
若者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの学生がいるにも関わらず、学生の力が十分に活かされていない。</li> <li>・限られた学生の期間の中で、地域で力を発揮することができないか。</li> <li>・卒業後の居場所に、滋賀県が選択肢になるように、滋賀への郷土愛のようなものが、心に残すことができればよい。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が県外に出ても、10年後に帰ってくるような魅力のある県になればよい。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・滋賀県を第2の故郷と思ってほしい。(卒業前にビワイチしよう)</li> <li>・就職で滋賀県を離れても、学生時代の愛着から、転職で滋賀に戻ったり、滋賀に家を買ったりする学生もいる。</li> </ul>
高齢者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孤独死などの問題が出ている。</li> <li>・たまに集まることが、最低限の支え合いになる。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気な高齢者が、問題を抱えた高齢者を支える仕組みづくりが必要。</li> <li>・80歳でも社会参画の意欲のある方がいる。将来を見据えた就労のあり方として、「生きがい就労」があるのではないか。</li> <li>・学びは何かに活かしたい力になる。「学び直し」の考え方は広めるべき。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の医療費にかかる費用が大きくなる。協働により2～3割は削減できる。</li> <li>・在宅看取り率が高いところは出生率も高い。</li> </ul>
障害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある方が安心して地域の生活を送れるようになるには、理解すること。</li> <li>・「表現」は、障害のあるなしに関係なく、普遍性を持つもの。表現が理解されると、自己肯定感につながり、安心した生活につながる。</li> <li>・人口減少の中で、居場所と出番がある共生社会は非常に重要。</li> </ul>
ひきこもり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期のひきこもりは、希望がなくなると自殺につながる。</li> <li>・ひきこもりは、一般には39歳までだが、高齢者も増加している。高齢者が引きこもると、認知症の問題が出てくる。</li> <li>・ひきこもりは、若者だけではない。病気や障害でもなく、困窮者でもなく、支援もない。</li> <li>・地域の厳しいまなざしが、家族にもむく。社会の柔らかいまなざしが必要。</li> <li>・本人は社会の役に立ちたい気持ちもある。ありがたうとかけられる言葉が大切。</li> </ul>
教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代が住みたいのは、教育や待機児童問題の取組が優れているまち。</li> <li>・豊岡市では、売店の人にも教育し、国際化するためのものとして英語教育をしている。</li> </ul>

## 基本構想審議会委員意見聴取結果概要(抜粋)

分野	主な意見
スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県と市町のスポーツ推進計画の連動が必要。県の計画の実効性が担保されるように、市町と調整して推進すべき。</li> <li>・高齢者の運動実施を推進するために必要なことは、市町の体育協会が実態に即して、阻害要因を取り除いていくこと。県が好事例の提供等などの支援をしてほしい。</li> <li>・競技スポーツの推進には、ニュースポーツでもよいので、大会を誘致すること。</li> <li>・スポーツビジネスを推進するには、各競技組織の法人化が必要。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動運転技術は、今後、物流分野でその可能性が出てくるかもしれない。</li> <li>・災害が起こったときにそれに耐えられる社会になっているかなど、琵琶湖線以外の交通も考える必要がある。</li> <li>・人口減少社会を見据えると、交通が行き届かない地域が出てくるかもしれない。</li> </ul> <p>既存の枠に囚われず、使えるものは使うという姿勢が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現名神や新幹線の位置づけを地域密着にしていくことが必要ではないか。</li> <li>・琵琶湖環状線も、電車でピワイチをするなど、奥琵琶湖の観光と結びつけて、もっと活用すべき。</li> </ul> <p>・JR沿線はよいが、公共交通でいけないところが多いと思う。</p>
災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口増の地域では、避難者を全員受け入れられない。講演や緑地を含めた避難所の割り当てや運営などを決めておかなければならない。</li> <li>・最近、山が雨に耐えられなくなってきている。保水能力や栄養、生物の生息など様々なものが含まれている土壌は、いったん流れてしまえば、元に戻るのに何百年もかかってしまう。</li> </ul>
イノベーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の「ICT推進戦略」のエッセンスを基本構想にも入れていきたい。</li> <li>・「全ての県民に」がキーワード。全ての県民が活用し、利益を享受できるようにしていくべき。</li> <li>・地域づくりの取組は、「均質化(どこでも住み良く)」および「多様性の確保・推進(わがまちは誇り)」という2軸の中に位置付けることができる。</li> <li>・滋賀の工学部教育が直面している課題としては、圧倒的な学生数の不足。可能性として期待しているのが、社会人(高卒・大卒)の再教育。大学院の副専攻を充実させるなどして「学び直しのチャンス」を設けたい。</li> </ul>

## 基本構想審議会委員意見聴取結果概要(抜粋)

分野	主な意見
商業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月3回ほど東京に行くが、滋賀ブームがじわじわきていると感じている。</li> <li>・「ここ滋賀」はもとより、東京や大阪で活躍されている事業者がたくさんいるが、活躍が県内に伝わってこない。</li> <li>・滋賀に愛着があり滋賀で働きたい人も多いが、ニーズがあるか不安と聞く。こういった人ともっと行き来したり、県内中高生が話を聴く機会を作ってはどうか。</li> <li>・旧滋賀会館の映画館や、浜大津の書店などを通じて触れたサブカルチャーが今の仕事を支えていると感じている。</li> <li>・次の世代が文化や歴史などに興味があり、知識、経験などが豊富で、それぞれが発信の仕方を持っているところは上手いっている。</li> <li>・デザインは大切。プロのデザインを加えると、お客様の反応、売上げが顕著に違うと感じる。</li> <li>・真珠の養殖事業者自身は、これまでの苦労やリスクの経験から継続すべきかどうか分からない状況</li> <li>・他の業種においても、茶農家が教師や、林業を掛け持っていたりする例がある。夏季が閑散期の職業など、繁忙期に合わせて共同でワークシェアするしくみができないか。</li> <li>・ここにしかないビワパールの魅力を丁寧に伝えていきたい。</li> </ul>
農業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農では、3年目くらいから先の見通しに不安になり離農者が多くなるのではないかと。仲間がいれば、心の支えになる。</li> <li>・滋賀県は、災害が少なく、山と水が豊富であり、農業に適している。</li> <li>・農業は、出産や育児にも合わせた理想のライフスタイルを実現できる。</li> <li>・小さい規模でも完結できる。女性にこそ魅力的な産業である。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農業は手間もかかり収量も安定しない。販路開拓・確保が最大の課題。生計が立てられず、やめていく人が多い。</li> <li>・農家同士のつながりが薄い。つなぐ活動が必要。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水稻の環境こだわり農産物が、県全体では37%と聞いており、半分以下で少ない印象である。</li> <li>・青年農業者クラブを卒業すると、農業者間のつながりがなくなる。中堅世代の情報交換の場がない。</li> <li>・男性の未婚率が高い。空き家も多く、集落の維持が課題である。</li> </ul>
漁業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滋賀の漁業は疲弊しており、大変厳しい。漁獲量・漁獲高は年々下がり、需要も減り単価が上がらない。漁業で生活することが難しくなってきたり、漁師の高齢化、魚屋の減少も進んでいる。</li> <li>・湖の魚を買ってもらえない原因は、「核家族化」と「食文化の変化」。湖の魚は、嗜好品ではなく食糧だったはずなのに、今は、食べ方も売っている場所も知らない。</li> <li>・生活が便利過ぎ、「目の前にある湖で魚が獲り、食べることができる」ということの有難みを感じなくなっている。</li> <li>・高齢化は顕著で、30代以下の漁師は2%程度。琵琶湖の漁船は個人操業であり、危険。</li> <li>・「地産地消」のみにこだわらず、首都圏へ売り込み、ブランド化して滋賀に戻ってきたい。</li> </ul>

## 基本構想審議会委員意見聴取結果概要(抜粋)

分野	主な意見
畜産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牛肉は嗜好品のため、いずれ必要とされなくなり産業として廃れるとの危機感を持っている。</li> <li>・滋賀で子牛の生産ができれば、多少の価格高となっても買いたい。</li> <li>・良い血統の牛が必要なためキャトルステーションでの繁殖に力を入れて欲しい。</li> <li>・近年は近江牛をどうしていくか、近江牛で新しい食肉を提案することを考えている。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校の同じ学科では、卒業後は半分以上が県外に出る。就職する生徒も多い。自分の見合った就職先が県外ならそこへ行く。</li> <li>・養豚を独自産業化するには、販売に難しさを感じる。</li> <li>・後継者と土地不足が問題であり、後継者不足により、豚を引き取ってほしいとの依頼もあった。</li> <li>・畜産家は40～70代の方が多い。畜産を一からはじめることは、大変</li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「美の滋賀」のように、美しいだけでなく、「おいしが うれしが」といった違う分野とも連携した取組が必要。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・琵琶湖ホールをもっと活用し県の誇りにすべき。理想はアーツカウンシルをつくり、ミッションを定めること。</li> <li>・琵琶湖のポテンシャルは高い。富裕層の長期滞在で稼げる。昼はセーリング、夜はオペラ鑑賞。</li> </ul>
空き家	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家対策として、子ども食堂やフリースペースなどの活動場所が提供できないか。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家のある地域を見れば、10年後の姿見える。</li> </ul>
移住	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住や空き家は、市町や民間をいかに巻き込むかである。</li> <li>・本当に伝えたいところに広報することが非常に重要である。</li> <li>・都会を経験した孫が祖父母のところに帰ってくる「孫ターン」という言葉がある。</li> </ul>
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近では、グローバルなシャワーを浴びすぎて、ローカルの情報を浴びる機会が少ない。まちづくりには、活性化、維持策、撤退策の3つの策がある。</li> <li>・選択ができるように、知識をつけることが重要。選択できる状態をつくらないのが、問題。</li> </ul>

## 基本構想審議会委員意見聴取結果概要(抜粋)

分野	主な意見
SDGs	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題から発生し得るマイナスの影響(ターゲット)を考察すると、よりSDGsの理念に基づくことになる。</li> <li>・プラスとマイナスの影響の双方についてどのように対応したか、そのプロセスを含めて提示することにより、国際社会へのよい貢献になる。</li> <li>・本来は、課題よりも、その課題に対する対策活動に対して、SDGs全体から照らし合わせてみていく方がよい。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「持続可能性」という言葉は浸透していない。いろいろなものをまとめて、この言葉を使うと、わからなくなる。言葉だけがきれいに流れてはいけない。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外来種の駆除とか、琵琶湖のことをSDGsを使って取り組める。</li> <li>・SDGsの達成目標を分かりやすいキャッチフレーズにして、滋賀をアピールしたり、世界に発信する県全体のムーブメントにしていくことができないか。</li> </ul>
計画策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画策定に携わることができるのは、100人程度。大切なのは、参加できなかった人も平等に、後から参加するために手を上げる仕組みを必ず入れること。そして、手の上げ方もわかりやすさが必要。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決型ではなく、目的達成型で何を目指していくのかを明確にするべき。</li> <li>・地域のベッド数などを指標とするのではなく、例えば、全住民がかかりつけのネットワークに入るなど、政策ごとの客観的指標の方がよい。</li> </ul>